

科目名	初等体育Ⅰ		担当教員	煙山 千尋、熊谷 慎太郎、三上 肇	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE106
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を活かし、小学校の授業方法に関する講義及び演習を行う。				
到達目標及びテーマ	小学校学習指導要領に示されている体育の目標及び内容を理解し、授業を実施するために必要な知識及び技能、指導方法や指導技術を習得することができる。				
授業の概要	本授業では、体づくり運動、表現運動、器械運動の領域と集団行動について扱い、それぞれの領域に関する知識及び技能、指導方法や指導技術を学ぶ。第1回では、全体でガイダンスを行い授業目標と授業の進め方を説明し、全体を3グループに分ける。第2回からは、それぞれのグループ別に体づくり運動（集団行動を含む）、表現運動、器械運動を4～5回ずつローテーション形式で受講する。				

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業目標・計画の説明、グループ分け（煙山千尋・三上肇・熊谷慎太郎）
第2回	表現運動1 リズム遊び（煙山千尋）
第3回	表現運動2 リズムダンス（煙山千尋）
第4回	表現運動3 表現遊び・表現（煙山千尋）
第5回	表現運動4 フォークダンス（煙山千尋）
第6回	器械運動1 マット運動・回転系（熊谷慎太郎）
第7回	器械運動2 マット運動・巧技系（熊谷慎太郎）
第8回	器械運動3 跳び箱運動・切り返し系（熊谷慎太郎）
第9回	器械運動4 跳び箱運動・回転系（熊谷慎太郎）
第10回	器械運動5 鉄棒運動（熊谷慎太郎）
第11回	体づくり運動1 集団行動及び体ほぐしの運動（遊び）（三上肇）
第12回	体づくり運動2 多様な動きをつくる運動（遊び）①（三上肇）
第13回	体づくり運動3 多様な動きをつくる運動（遊び）②（三上肇）
第14回	体づくり運動4 体の動きを高める運動①（三上肇）
第15回	体づくり運動5 体の動きを高める運動②（三上肇）

事前学修		小学校学習指導要領の体づくり運動、表現運動、器械運動の領域の内容を確認しておくこと。
事後学修		各回の内容を整理し、学んだことが定着するようにまとめておくこと。
フィードバックの方法	適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業における取り組み姿勢
上記以外の試験・平常点評価	20%	技術・スキル
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への参加度。遅刻早退は欠席0.5回分とする。
補足事項	1種目4～5回の授業のうち3回欠席した場合、その種目は失格となり、本授業全体も失格となる。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	初等体育 II		担当教員	竹本 康史、小栗 和雄、花村 重雄	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE107
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を生かし、小学校における体育の授業法について講義と演習を行う。				
到達目標及びテーマ	小学校で学習する体育の目標と学習内容を理解するとともに、体育の授業を行う教師のあり方、様々な運動の基礎、小学校の保健の教科内容を習得することができる。				
授業の概要	小学学習指導要領体育に示されている体育の目標を達成するよう、必要な知識・技能、指導方法を中心に学ぶ。ここでは、受講生を3グループに分け、水泳、ボール運動、陸上運動（保健）をそれぞれ5回ずつ受講する。				

授業計画	
第1回	水泳1 水慣れ、水遊び（花村重男）
第2回	水泳2 クロールの泳法（花村重男）
第3回	水泳3 平泳ぎの泳法（花村重男）
第4回	水泳4 クロールと平泳ぎの指導法（花村重男）
第5回	水泳5 水中安全教育（救助法、着衣泳）（花村重男）
第6回	陸上運動1 短距離走（スタート姿勢、序盤・中盤・後半の疾走技術）（小栗和雄）
第7回	陸上運動2 走り幅跳び・高跳び（助走、踏切、空中の姿勢とバランス、踏切から着地）（小栗和雄）
第8回	陸上運動3 リレー（バトンパス、ゴーマークの設定）（小栗和雄）
第9回	陸上運動4 ハードル走（ハードリングとインターバル、スタート、またぎごし）（小栗和雄）
第10回	保健学習 「保健学習」の位置づけ、毎日の生活と健康、育ちゆく体と私、心の健康、けがの防止、病気の予防（小栗和雄）
第11回	ボール運動1 ソフトボールの指導法（ベースボール型）（竹本康史）
第12回	ボール運動2 バレーボールの指導法（ネット型）（竹本康史）
第13回	ボール運動3 テニスの指導法（ネット型）（竹本康史）
第14回	ボール運動4 バスケットボールの指導法（ゴール型）（竹本康史）
第15回	ボール運動5 サッカーの指導法（ゴール型）（竹本康史）

事前学修	0.5時間	小学校学習指導要領において水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動関係についての記述内容を確認しておく。
事後学修	0.5時間	小学校学習指導要領における水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動関係の各教育内容のポイントを整理して説明できる。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	90%	各分野の授業終了後にレポートが課される。
上記以外の試験・平常点評価	10%	授業への参加度。
定期試験	0%	なし
補足事項	5回中3回以上の欠席、またはレポート課題の未提出によって、いずれか1種目でも「失格」や「不可」になった場合、本授業全体の評価も「失格」や「不可」となる。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	初等体育 II		担当教員	小栗 和雄、竹本 康史、小椋 優作	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3SRE107
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場での経験を生かし、小学校における体育の授業法について講義と演習を行う。				
到達目標及びテーマ	小学校で学習する体育の目標と学習内容を理解するとともに、体育の授業を行う教師のあり方、さまざまな運動の基礎、小学校の保健の教科内容を習得することができる。				
授業の概要	小学学習指導要領体育に示されている体育の目標を達成するよう、必要な知識・技能、指導方法を中心に学ぶ。ここでは、受講生を3グループに分け、ボール運動、水泳、陸上運動（保健）をそれぞれ5回ずつ受講する。				

授業計画	
第1回	水泳1 水慣れ、水遊び（小椋優作）
第2回	水泳2 クロールの泳法（小椋優作）
第3回	水泳3 平泳ぎの泳法（小椋優作）
第4回	水泳4 クロールと平泳ぎの指導法（小椋優作）
第5回	水泳5 水中安全教育（救助法、着衣泳）（小椋優作）
第6回	陸上運動1 短距離走（スタート姿勢、序盤・中盤・後半の疾走技術）（小栗和雄）
第7回	陸上運動2 走り幅跳び・高跳び（助走、踏切、空中の姿勢とバランス、踏切から着地）（小栗和雄）
第8回	陸上運動3 リレー（バトンパス、ゴーマークの設定）（小栗和雄）
第9回	陸上運動4 ハードル走（ハードリングとインターバル、スタート、またぎごし）（小栗和雄）
第10回	保健学習 「保健学習」の位置づけ、毎日の生活と健康、育ちゆく体と私、心の健康、けがの防止、病気の予防、安全管理（小栗和雄）
第11回	ボール運動1 ソフトボール（ベースボール型）（竹本康史）
第12回	ボール運動2 バレーボール（ネット型）（竹本康史）
第13回	ボール運動3 テニス（ネット型）（竹本康史）
第14回	ボール運動4 バスケットボール（ゴール型）（竹本康史）
第15回	ボール運動5 サッカー（ゴール型）（竹本康史）

事前学修	0.5時間	小学校学習指導要領において水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動についての記述内容を確認しておく。
事後学修	0.5時間	小学校学習指導要領における水泳、陸上運動（保健含む）、ボール運動の各教育内容のポイントを整理して説明できる。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	90%	各分野の授業終了後にレポートが課される。
上記以外の試験・平常点評価	10%	授業への参加度。
定期試験	0%	なし
補足事項	5回中3回以上の欠席、またはレポート課題の未提出によって、いずれか1種目でも「失格」や「不可」になった場合、本授業全体の評価も「失格」や「不可」となる。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				